

# 日本建築学会大賞・文化賞受賞 西川・浅田両氏が足跡語る



浅田社長

西川名譽教授

日本建築学会近畿支部(山中俊夫支部長)は25日、特別記念講演会をオンラインで開いた。2020年度の日本建築学会大賞を受賞した西川幸治京大名譽教授・滋賀県立大学名譽教授と同文化賞を受賞した浅田剛治ハイパードライブ社長・元ノバレーゼ社長が自身のこれまでの足跡について語った。

冒頭、山中支部長は「この両名は当支部が19年度に推薦させていただいた。ダブル受賞は大変喜ばしいことだ。昨年の懇話時に記念講演していただく予定だったが、中止になったためこういった形での開催となった。オンラインではあるが1500人を超える方に、ご視聴いただき、感謝している」とあいさつした。

つづいて竹輪出日本建築学会会長は学生時代、京大で西川先生から東洋建築史や地域計画論を学んだ。久しぶりにお話を聞くのを楽しみにしている。浅田社長は、大変むずかしい歴史的

「日本には都市はない」といわれ、都市研究というものが日本に存在しなかった時代に支えていただいた皆さんに感謝している」と述べた。

また、地域に根差した文化財について「指定文化財のような静態保存ではなく、動態保存が望ましい。伝統を守り時代に合う保存となるよう手法を開発していかなければならない」と語った。

ジェームス邸(神戸市)などの歴史的建築物を結婚式場やレストランとして活用し、良好な建築ストックを形成してきた功績が認められた浅田社長は、写真を見ながらこれまでの事例を紹介し「古い建物と結婚式場は非常に親和性がある。ただし、結婚式場のノウハウや資本、設計事務所・施工会社のサポートがなければ成功は難しい。今後機会があれば古い建物を現代風に解釈し、若い人たちに利用していただき、建物が長く存続していける収益を確むビジネスを展開していきたい」と話した。

な建築物の保存活用は尽力されさまざまな工夫を凝らしてきた。きょうはぜひその話をお聞かせいただきたい」と挨拶を述べた。

日本都市史研究や地域文化財の保存修景計画論文、アジアの歴史遺産調査研究などの功績が高く評価された西川名譽教授は、戦後の混乱期に学生時代を過ごし、窮乏と闘いながら都市や地域文化財保存の研究にまい進してきた半生を振り返り

# 大賞受賞者の講演配信

建築学会  
近畿 西川京大名譽教授ら

日本建築学会近畿支部(山中俊夫支部長)は、2020年同学会大賞を受賞した西川幸治京大名譽教授・滋賀県立大学名譽教授と同学会文化賞を受賞したプライタル関連事業のハイパードライブ代表取締役の浅田剛治氏による記念講演会をウェブで開催、動画配信した。写真。

西川名譽教授は「都市史研究・東洋建築史研究ならびに地域文化財の保存活用」について講演。滋賀県近江八幡市の八幡堀保存・活用の経緯を引用して、「伝統を守りつつ、新しい



時代にくさわしい、動態保存する手法を開拓しなければならぬ」「まちづくり」に地域文化財を活用するよう期待する「なごこと述べた。

浅田氏は「歴史的建造物の魅力を生かした結婚式場・レストランの計画と運営による近代建築の保存活用」をテーマに、プライタル事業のノバレーゼ社長として取り組んだ6施設の保存・活用の取り組みを説明。「建物を残したいと考える人とアイデアを持つ設計者・施工者の知恵と情熱、経験の結晶が六つの建物」とたたえ、「今後も古い建物を現代風に解釈し、若い人が利用する収益を生むビジネスに取り組みむ」と決意を表明した。

最後に山中支部長は、講演者2氏に「西川先生には今後の都市史研究やまちづくりに関する示唆をいただきました。また浅田氏からは多くの歴史的建造物に新しい生命を吹き込む思いとさまざまな物語を聞けた。お二人のご活躍と後進の指導を願います」と語った。